1. 感染症速報（壱岐地区）

令和8年10月2日作成

2026年 第39週　**9月21日**　～　**9月27日**

作成：長崎県壱岐保健所　企画保健課

疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	😷	RSウイルス感染症	😄	咽頭結膜熱	😄	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	😐	急性呼吸器感染症（ARI）	😐
警報:開始30 終息10	**10.00**	警報:開始 - 終息 -	**0.00**	警報:開始3 終息1	**0.00**	警報:開始8 終息4	**0.50**	警報:開始 - 終息 -	**19.33**
感染性胃腸炎	😄	水痘	😄	手足口病	😄	伝染性紅斑（リンゴ病）	😄		
警報:開始20 終息12	**0.00**	警報:開始2 終息1	**0.00**	警報:開始5 終息2	**0.00**	警報:開始2 終息1	**0.00**		
突発性発しん	😄	ヘルパンギーナ	😄	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	😄	新型コロナウイルス感染症	😄		
警報:開始 - 終息 -	**0.00**	警報:開始6 終息2	**0.00**	警報:開始6 終息2	**0.00**	警報:開始 - 終息 -	**0.00**		

※定点数3：インフルエンザ
　新型コロナウイルス感染症
　急性呼吸器感染症（ARI）
※定点数2：上記以外の疾患

※急性呼吸器感染症（ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなども含まれ、報告数は重複します。

😄	発生報告なし	😐	少数の発生あり	😷	流行に注意【注意報レベル】	😵	流行中【警報レベル】

※警報レベル基準値は表示のとおり（-は設定なし）。注意報レベル基準値は、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ:10 水痘:1 流行性耳下腺炎:3 その他は設定なし。

2. トピックス

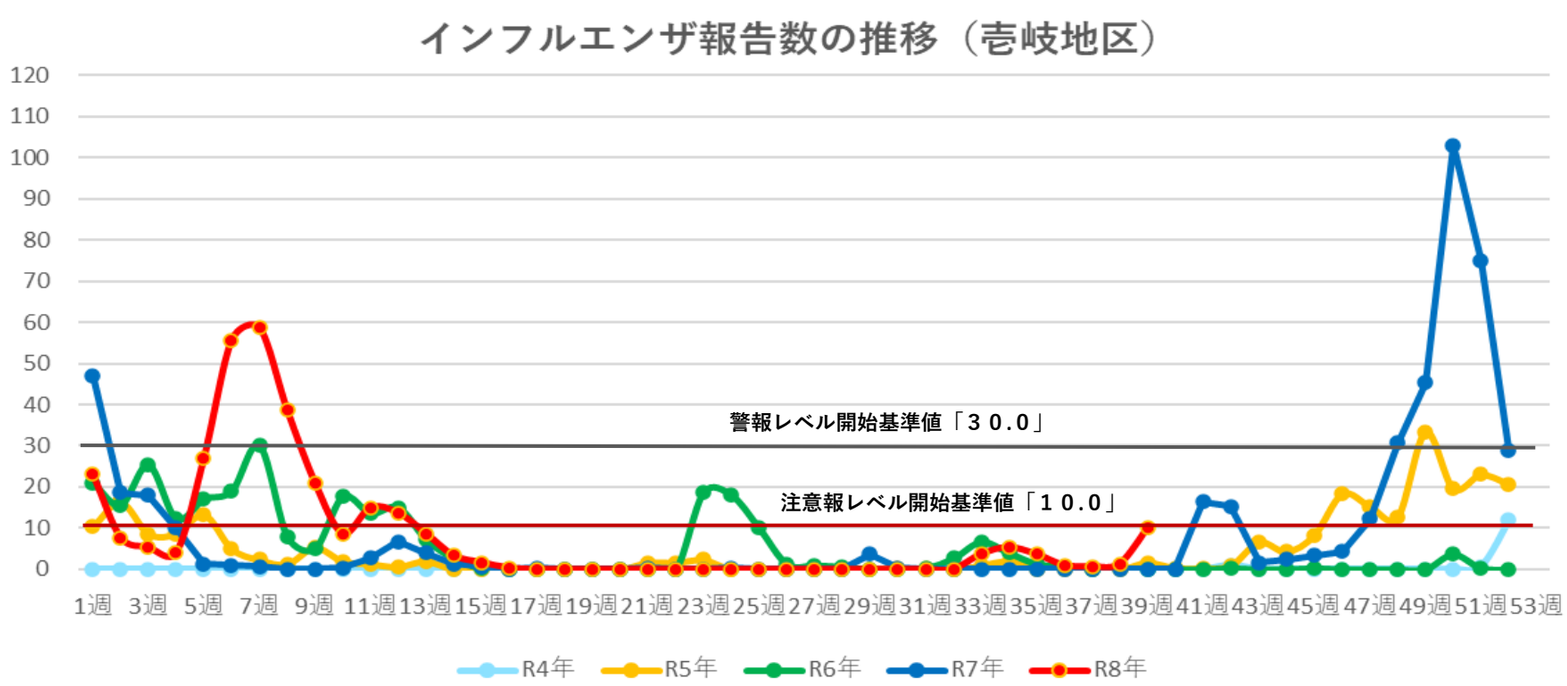
★インフルエンザが流行しています！！

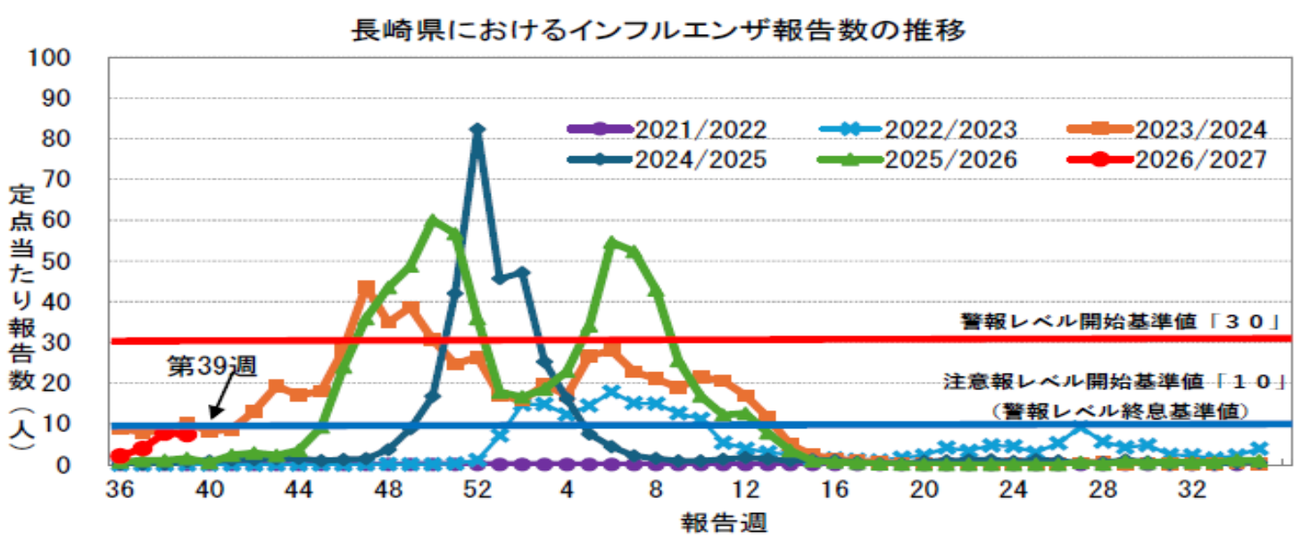
壱岐地区では、2026年第39週の定点当たり報告数が10.00で、注意報レベル基準値「10.0」に達しています。

また、長崎県内の第39週の定点当たり報告数は「7.34」でした。県内では第34週に流行開始の目安となる「1.00」を上回り、流行期に入っています。地区別にみると、県央地区（15.25）、五島地区（11.67）、対馬地区（11.00）、壱岐地区（10.00）が他の地区より多く、注意報レベルの報告数となっています。

今後も患者数の増加が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、**壱岐市において９月16日から接種が開始されているインフルエンザワクチン**は、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、早めにワクチンを接種しましょう。

参考）長崎県保健研究センターホームページ「インフルエンザ」





インフルエンザの保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	367	11	79	30	3	122	36	3	35	15	33
定点数	50	7	11	3	5	8	4	3	3	3	3
定点当たり報告数	7.34	1.57	7.18	10.00	0.60	15.25	9.00	1.00	11.67	5.00	11.00

★国内で麻しんの報告が増加しています

2026年第39週時点で壱岐地区での発生報告はありませんが、**国内で麻しんの報告が増加**しています。特に、**福岡県では第38週に12例、第39週に1例の発生**が報告されています。今後、感染拡大が懸念され、注意が必要です。

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は 非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。感染経路 は、空気感染、飛まつ感染、接触感染で、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2～3日熱が続いた後、高熱と発しんが出現します。合併症として、肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、死亡することもあります。

手洗い・マスクのみで予防はできず、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期接種対象者（1 歳児、小学校入学前1年間の幼児）は確実にワクチンを接種しましょう。

1 感染予防とまん延防止のために

○ **発熱、咳、発疹、鼻水、目の充血など麻しんに特徴的な症状**が現れた場合は、外出を控えるとともに、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。

○ 症状の出た日の7日から21日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

○ 受診の際には、周囲への感染を防ぐため公共交通機関等の利用を控えてください。

2 医療機関のみなさまへ

麻しん患者を診断した場合は、保健所へ直ちに届出をお願いします。

また、麻しんに関する特定感染症予防指針に基づき、ウイルス遺伝子検査を行うため、患者検体の提供に御協力をお願いします。**別添のチラシ**をご参照ください。

参考）壱岐保健所ホームページ

参考）長崎県ホームページ

参考）福岡県　麻しん（はしか）の発生に関する県民への注意喚起情報

参考）厚生労働省ホームページ「麻しん」

参考）国立健康危機管理研究機構（JIHS） 感染症情報提供サイト

参考）「麻疹 発生動向調査 速報グラフ 2026年

壱岐保健所　長崎県　福岡県

厚労省　JIHS　速報グラフ

★マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に 多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、４月以降、SFTS 8件、日本紅斑熱 25件、つつが虫病1件の報告があがっています。（壱岐地区では報告なし）

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使 用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の 血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、 動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

厚労省　県

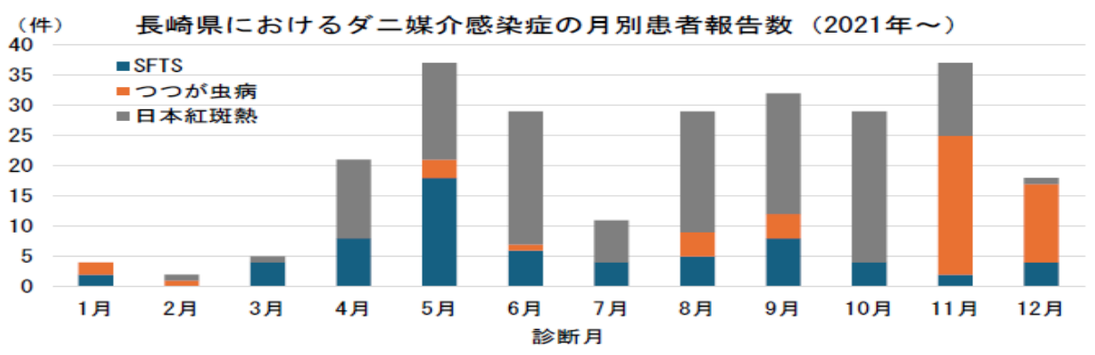
参考）厚生労働省ホームページ 「ダニ媒介感染症」

参考）長崎県地域保健推進課 「ダニ感染症の予防」

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6（6）	13（10）	13（9）	13（11）	12（10）	8
日本紅斑熱	28（17）	22（10）	14（12）	24（16）	25（17）	25
つつが虫病	14（4）	7（0）	15（6）	11（2）	2（0）	2

※（ ）は第39週までの発生件数



9月1日～9月30日は『健康増進普及月間』
9月～11月は「健康増進強化期間」

【統一標語】　1に運動　2に食事　しっかり禁煙　良い睡眠

～健康寿命の延伸～

生活習慣病は日常生活の在り方と深く関連しており、健康の保持・増進を図るには、運動習慣の定着や食生活の改善といった健康的な生活習慣の確立が重要になります。

長崎県は、野菜摂取不足、食塩過多傾向、歩数が少ないなどの健康課題がみられます。これらの健康課題は、生活習慣病等の疾病にもつながってしまいます。

みなさんも日頃の生活習慣を振り返り、「自分ができること」から１つずつ取り組んでいきましょう！

- 日頃の食事に野菜をプラス１皿
- 減塩を意識する
- いつもよりプラス１０分動く

こどもも大人も 麻しんを疑った際の対応

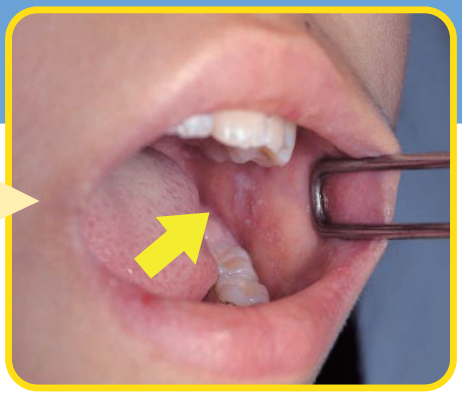
- 発熱 ＋ 発疹 ＋ カタル症状（咳・鼻汁・結膜充血）
- 口腔内のコプリック斑
- 海外渡航歴 または麻しん患者発生地域への移動歴、接触歴
- ワクチン2回未完了 または 不明

全身性発疹＋発熱＋カタル症状（咳・鼻汁・結膜炎）±流行地滞在

成人例でも重篤になる可能性があります

典型的皮疹
紅色斑丘疹
融合傾向を示す

コプリック斑
頬粘膜に好発



修飾麻しんでは、典型所見に乏しいことがあるので注意！

（修飾麻しんとは、麻しんに対する免疫が不十分な人に生じる、軽症で非典型的な麻しんである）

1 感染対策

- 個室管理対応、患者にマスク着用を促し、扉を閉める（**可能なら陰圧室**）
- 空気感染対策（**原則、N95マスク**）＋標準予防策を行う
- 対応する医療者と接触者を最小化する

2 臨床対応

- ワクチン接種歴聴取、臨床評価、脱水や呼吸管理等
- 合併症：中耳炎、肺炎、下痢等による脱水、脳炎

※ 麻しん患者との接触後、72時間以内に麻しん含有ワクチンを接種すること等によって、麻しんの発症を予防できる可能性がある。

3 連絡・届け出

- 院内ICTへ即時連絡
- 麻しんと臨床診断したら直ちに発生届提出
- できるだけ早期（発疹出現後1週間以内）に、保健所の指示に基づく検体（咽頭ぬぐい液・尿・EDTA血）を採取し、提出する
- 提出方法は、自治体毎に異なるため、管轄の保健所に問い合わせる

※ 必要に応じてIgM抗体検査も実施するが、発疹出現後3日以内は偽陰性に注意する。

JIHS 国立健康危機管理研究機構

写　真：学校における麻しん対策ガイドラインより
参考資料：医療機関での麻疹対応ガイドライン／第七版
作　成：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センター（2026年3月）

麻疹対策・ガイドラインなど

最新の国内発生状況